

平成28年度新南小学校 全国学力・学習状況調査結果の概要と具体的な取組

調査内容

(1) 実施日 平成28年4月19日(火) (2) 対象 第6学年 2学級 48人

全国学力・学習状況調査は、国語・算数ともに「知識」に関する問題を主としたA問題と「活用」に関する問題を主としたB問題の2つがあります。A問題、B問題ともに国語は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の1事項に、算数は、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域に分かれています。

調査から見てきた本校の課題

《国語科の傾向》

○A問題では、本校の正答率は県平均を上回りましたが、全国平均と並ぶ結果でした。いっぽう、比較的難しいB問題では全国・県平均ともに上回る結果でした。

本校は長年国語科の授業研究に取り組み、子どもたちが主体的に取り組むような言語活動を効果的に取り入れながら、「生きてはたらく言語力」の育成に力を入れてきました。さらに、「昼の読書タイム」や「うちどくコーナーの活用」等、読書環境の充実にも努めてきました。また、俳句づくりや古典作品（百人一首など）の鑑賞・暗唱等を通して日本語を大切にする活動もすすんで取り入れています。こうした取組の成果の一端が今回の結果に表れていると思われま

す。○国語の課題として、記述力があげられます。単純に文を書くのはできますが、そこに条件が加わったり、使う言葉や字数等で制限が与えられたりすると、うまく表現できないようです。また、ローマ字が正しく書けない点も目立ちました。 **課題1**

《算数科の傾向》

○A・B問題いずれも、県・全国を上回る結果でした。A問題の基礎的な計算や図形・数量の理解もできていますが、単位量あたりの大きさを求めるのが、やや苦手なようです。

○示された四角形を6つ並べてできる形を選ぶ問題や1を超える割合を百分率で表す際、基準量と比較量の関係を問う問題の正答率がやや低かったです。問題慣れしていない面もありますが、繰り返し練習することで定着を図りたいと考えています。

○問題は理解でき、解答を導くこともできますが、その理由を文章で答えるように求められると、正答率が低くなるようです。 **課題2**

課題解決に向けて

課題1 解決のために

国語科の授業の中で、「伝え合う学習」を大切に、自分の立場や根拠を明確にして話し合える子どもをめざしています。こうした取り組みに加えて、相手の意見を受けて、さらに考えを述べるという活動も多く取り入れていきたいと考えています。そのためには、まず自

分の考えを明確に持つことが必要ですので、自分の立場を明らかにし、根拠をもとに考えを書けるよう「書く活動」にも力を入れていきたいと考えています。また、「書く活動」では、字数や内容、使う言葉等制限を加えながら、様々な様式の記事が書けるように取り組んでいきたいと考えています。また、ローマ字については、調べ学習でパソコンを利用する際、ローマ字で入力するなど、活用する機会を増やします。

課題2解決のために

算数において、答えは一つでも、それを導き出す方法、そこに至る道筋は幾つもあるということ、子どもたちに意識させたいものです。算数の時間は、そうした方法や道筋を出し合い、検討していく活動を大切にしていきたいと考えています。単に答えを導くだけでなく、そこに至る過程を説明したり、文章で表現したりする活動を大切にしていきたいです。こうした学習を重ねることで、正解を導き出したときの喜びを味わい、問題に粘り強く取り組む姿勢や難しい問題にすすんでチャレンジする意欲も育ってくると考えています。

全国学力・学習状況調査では、国語・算数の学力調査の他、児童質問紙調査があります。この質問紙調査では、児童の学校や家庭における学習状況や各学校での指導の様子がわかります。

《質問紙調査の傾向と対策》

○生活習慣の改善 ※数値は肯定的な回答（選択肢1・2の合計）カッコ内は全国値
「朝食を毎日食べていますか」87.2%（全国95.5）「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」72.3%（80.1）と全国平均より数値がやや低い。ふだんの就寝時刻も遅く、睡眠時間も短い。また、テレビゲームをしたり、スマホ等を使ってメールをしたりする時間が全国より長い。いっぽう、通塾率も高く、その学習や宿題に追われているといった実態もあるようです。「早寝・早起き・朝ごはん」についてはPTAと連携して取り組んでいますが、低学年の段階からその徹底を図りたいです。

○キャリア意識の育成

「将来の夢や目標を持っていますか」70.2%（85.3）と将来の展望を持っている子がやや少ない一方で、「人の役に立つ人間になりたいと思うか」は80.9%（93.8）という結果でした。これまで人の役に立った生活経験やそれを振り返る機会が不足していたのかもしれませんが、キャリア教育や特別活動の充実に努めながら、子ども達の自己有用感を高め、将来に展望の持てる子どもを育てていきたいと思えます。

○授業方法の工夫改善

「総合的な学習の時間の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役立つと思うか」44.7%（83.2）や「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか」34.0%（65.4）などの結果から、子ども達のやや受け身的な学習態度が気になります。それと同時に、総合的な学習の時間の学習の進め方について、今一度見直さなければならないと思えます。自ら課題を見つけ、主体的に判断し、友達と協働しながらよりよく問題を解決する資質や能力を育てる「総合的な学習」の目標に立ち返り、子ども達が学びたくなるような授業の構想や工夫改善を進めます。